

タイワンヒメシジミが与那国島で一時発生するまでは、おそらく日本産チョウの中で最も小さいチョウは本種ホリイコシジミだったと思われる本当に小さなチョウだ。幼虫がランタナという植物を食草とすることから、このチョウに会いたければランタナの花周辺に注意すればいいのだが、意外になかなか縁がなく、実際、竹富島の牧場沿いにはびこるランタナの近くを飛び回る本種を初めて観察できたのが2003年の11月1日。1993年の沖縄・石垣島初訪問から実に15回を数える八重山通いでようやくこの小さなチョウが実際に飛ぶ姿を目にしたわけで、2004年9月の二度目の出会いと合わせて、紀行文の記述を抜粋しておく。

2003年11月1日竹富島：よく見ると、このランタナの花のまわりに小さいシジミチョウがチラチラと忙しげに飛び交っている。日本産チョウのなかで、その個体の小さいことで1,2を争うホリイコシジミだ。ちょうど筆者より1週間ほど早い10月半ばに八重山諸島探索をされた蝶友の海津さんからの携帯電話情報によって石垣島でなら見られると聞いていたチョウだが、予期しない竹富島でいとも簡単に出会えたことにおどろく。それにしても小さく、ビデオ接写もクリアー映像を残せず。試しに1頭を採集してみたものとても展翅標本作成にもっていく自信はなくてリリース。このホリイコシジミと遊んでいる間にとうとう雨が落ち始め、（後略）

2004年9月15日石垣島：橋を渡った先には道路中央にランタナ花壇が百メートルほど続いていて、男性一人がその花壇周辺にへばりついて何かをしているのが遠目にわかる。さらに遠くには新たな東屋が見え、その周辺にあきらかに公園管理の業務についているとわかる複数の人影が動く。ランタナ花壇は赤系統のものと黄一色のものが交互に配置されて連なっており、その横を歩くと複数頭のホリイコシジミがチラチラと飛び交っているのが目に入るが、チョウに関心がないひとだったらおそらく全く気づかないだろう。それほど見事なまでに小さいチョウで、とても展翅標本を作製する自信はない。例の男性は拡大鏡を片手に花穂を中心に細かく観察をしており、話しかけると「先ほど蛹から羽化するところを見た」そうで、さらに産卵のタイミングをつかんで卵の観察も心している様子。ホリイコシジミをカメラでねらうも、多くはオスの探雌飛翔のせいでめったに静止してくれない。撮影できるとすれば比較的静止しやすいメスにねらいを定めるしかないが、それを探し当てるのも容易ではない。結局、ねばりぬいて交尾中の場面を探し当て、ようやくじっくりとカメラに収める。

